



京都ビッグデータ活用プラットフォーム 事業方針

一般社団法人 京都スマートシティ推進協議会



京都を、スマートシティ実践の「リーダー」に

京都スマートシティ推進協議会

MISSION

I C T等の最新技術を用いて、都市地域の機能やサービスを効率化・高度化し、生活の利便性や快適性を向上させるとともに、持続的に発展する新たな社会システムとイノベーションを創出し、スマートシティを実現することを目指す。

京都の環境をスマートに
京都のつながりをスマートに
京都の産業をスマートに



そのために

VISION

スマートシティ実現を目指す京都府と企業、府民をつなぐプラットフォームになること

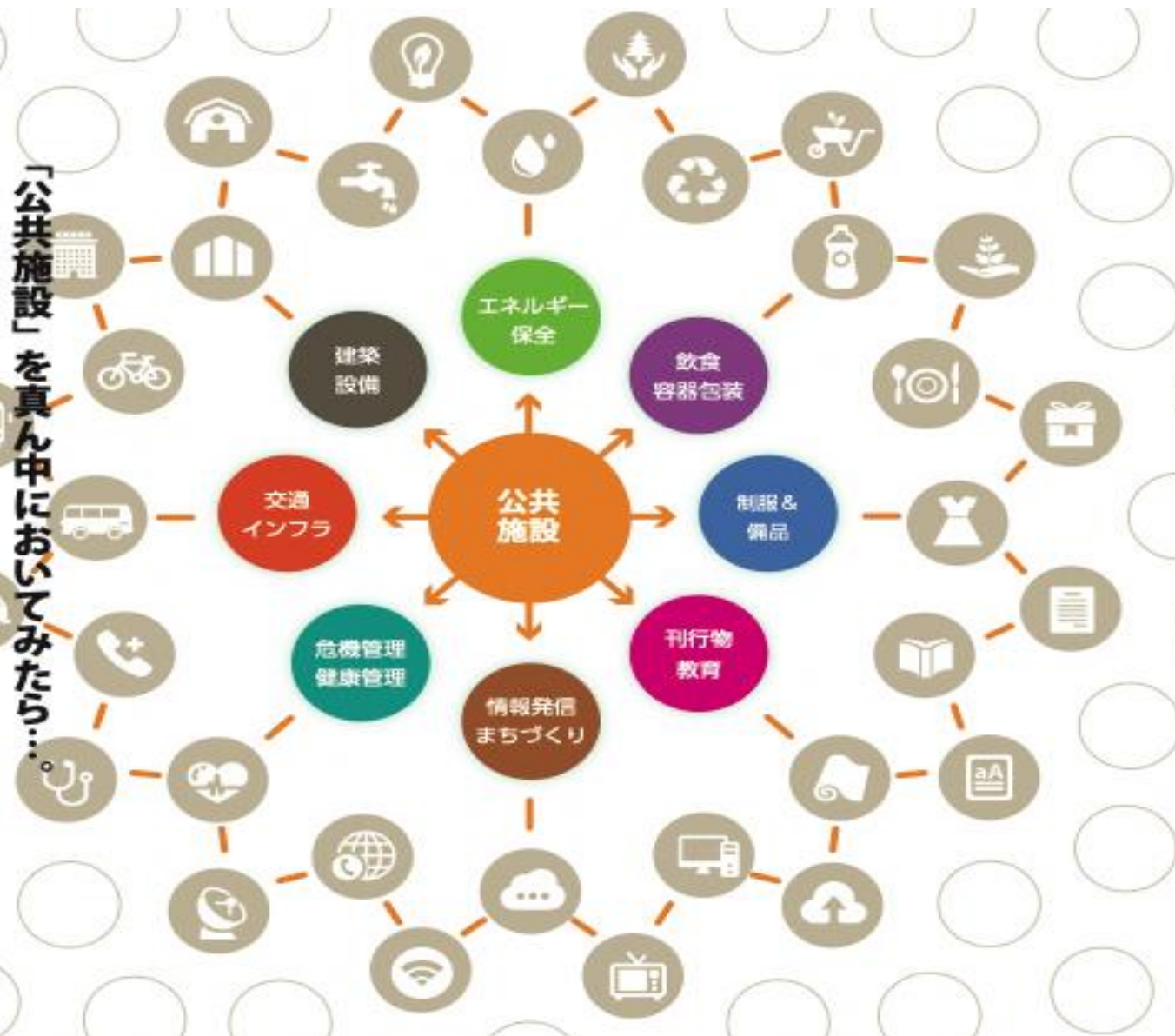


公共は、あらゆる産業のバリューチェーンがつながりあうプラットフォーム

府下の様々なところに図書館、公民館、スポーツセンター、まちづくり施設、児童館、高齢者ケア施設、授産施設、といった公共施設、つまり市民のために行政が用意しているあらゆるハードは、地域のあらゆる産業を巻き込むことのできる可能性を秘めている。

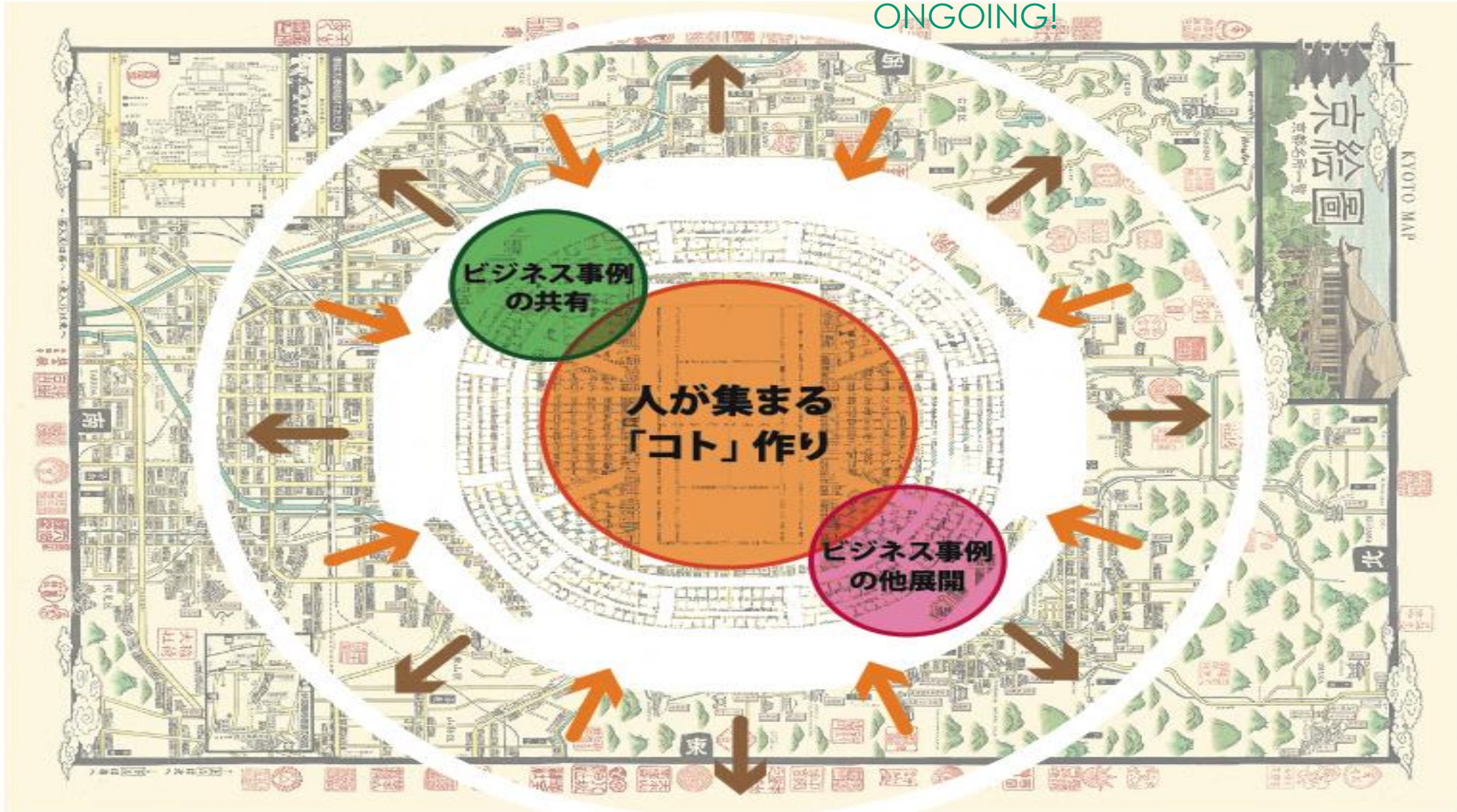
この公共施設がSDGsに挑戦する意思を表し、その方策にICTを積極的に導入していこうとすれば、自ずからスマート技術は発展し、多くの府民に恩恵をもたらすことができる。

「公共施設」を真ん中においてみたら...



京都を、スマートシティ実践の「ショーケース」に

ONGOING!



京都府 x スマートシティ x 会員企業 ビジネスプロジェクト

取り組むビジネスプロジェクト概要

プロジェクト1

デジタル・パブリック・サイネージ プロジェクト

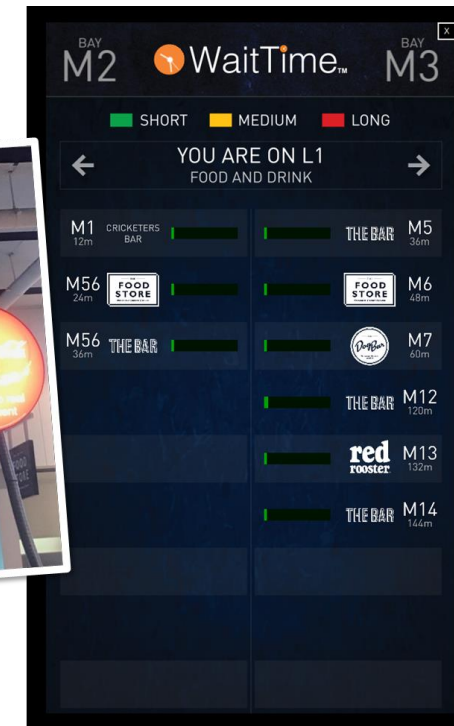
- ✓ 府内、15箇所に設置されている電子掲示板。
- ✓ 府民に資する観光施策の立案や観光サービス開発提供のツールとして。
- ✓ 地域の企業、府内外の企業と、地域の公共機関・NPOなどの市民団体、スポーツ団体などをつなぎ、京都のSDGs実現への取り組みを発信する媒体として。
- ✓ **公共からの**新しいデジタル・サイネージの活用方法を実証実験する。

プロジェクト

イベント時や観光シーズンに混雑する施設に設置。名所やレストランまでの方向、距離、混雑状況を一覧にする。

狙う成果

- ・ 混雑の解消や観光客のスマートな動線形成を図る新規モデル創出
- ・ 地域分散型経済モデルの確立
- ・ SDGsを基軸にした新規事業創出



豪メルボルン市の事例

プロジェクト2

公園スマート化 プロジェクト

- ✓ 嵐山公園、けいはんな公園にスマートストリートライト・センサー・カメラを設置。
- ✓ 地域住民を中心に据えて、ライトによる快適性向上を図る。
- ✓ 調光の色や点滅のシグナルコードに合わせた防災、カメラも含めた防犯メカニズムの構築を図り、地域住民、観光客が安心安全を感じるまちづくりを目指す。
- ✓ エネルギー費用、メンテナンス費用の抑制を図る。

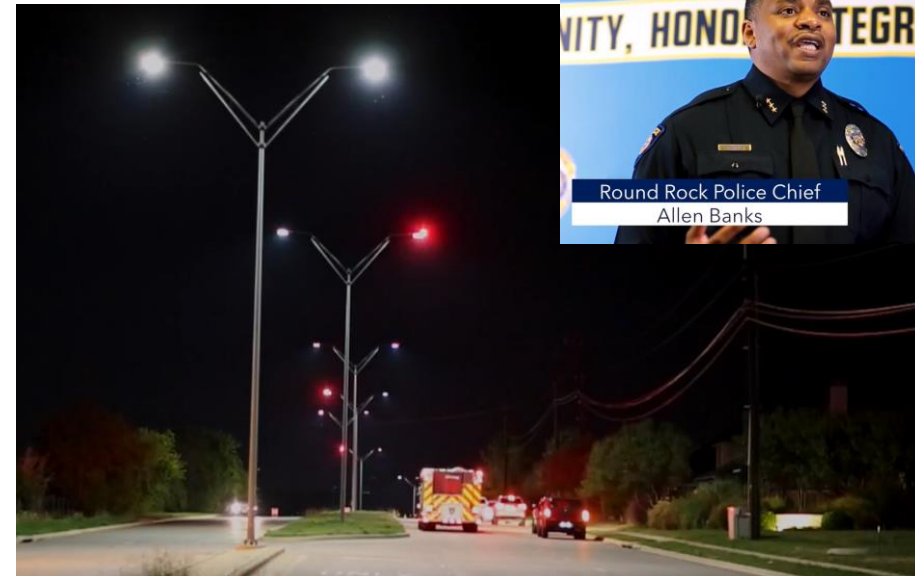
プロジェクト

嵐山公園、けいはんな公園にスマートライト・センサー・カメラを設置。



狙う成果

- ・ 公園や公共施設の環境の新しい在り方を示す新規事業創出
 - 光の快適性向上
 - 防災、防犯システム構築
 - 電気代、メンテナンス費用削減などなど



米ラウンドロック市の事例

プロジェクト3

データ統合・連携基盤構築 プロジェクト

- ✓ 大学、研究機関、観光連盟、DMO、行政などの公共機関と企業のネットワーク構築
- ✓ 新規データ取得だけでなく、過去、或いは現在、埋没して活用されていない様々な公共・地域データを再生・再活用する
- ✓ 地域の社会課題解決の基礎データとして活用
- ✓ 公共機関がSDGs実現に取り組む中で求められるデータの可視化を図る

プロジェクト

大学、研究機関、観光連盟、DMO、
行政等の公共機関と企業のネット
ワーク構築、データ連携支援。



狙う成果

- ・ 埋没していたデータの価値蘇生による新規事業創出
- ・ 基礎データ統合、基盤構築
- ・ 新たなデータの可視化による新規事業創出



米サンタクララ郡庁舎の事例



京都ビッグデータ活用プラットフォーム 事業内容詳細

一般社団法人 京都スマートシティ推進協議会

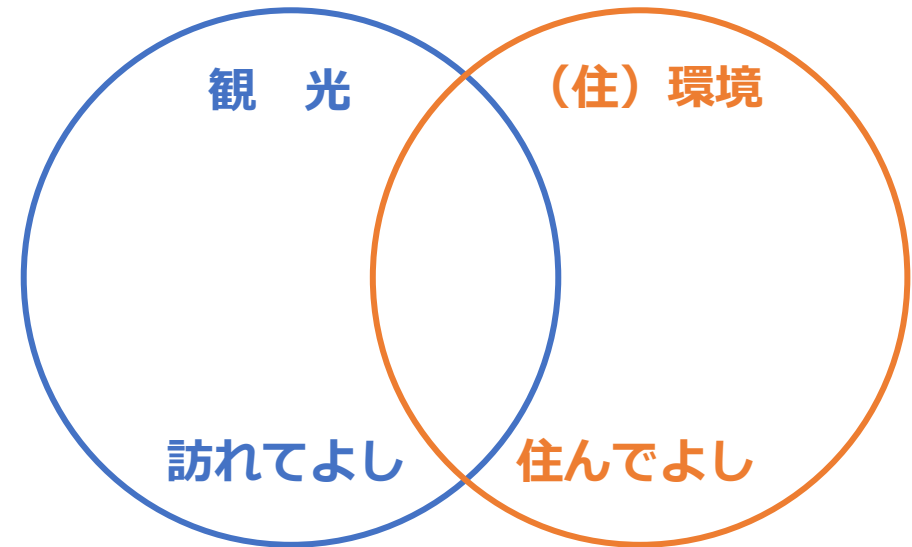
データ利活用型「スマートシティ京都」モデル構築事業

平成30年度総務省補助事業

「住んでよし、訪れてよし」の超快適スマート社会の創出

京都の基幹産業である**観光分野を軸にしたデータ利活用**の促進

1. サステナビリティが高く暮らしやすい
2. 京都の生活文化を観光キラーコンテンツ化
3. ICTやデータを活用したスマート社会の実現・新産業の創出

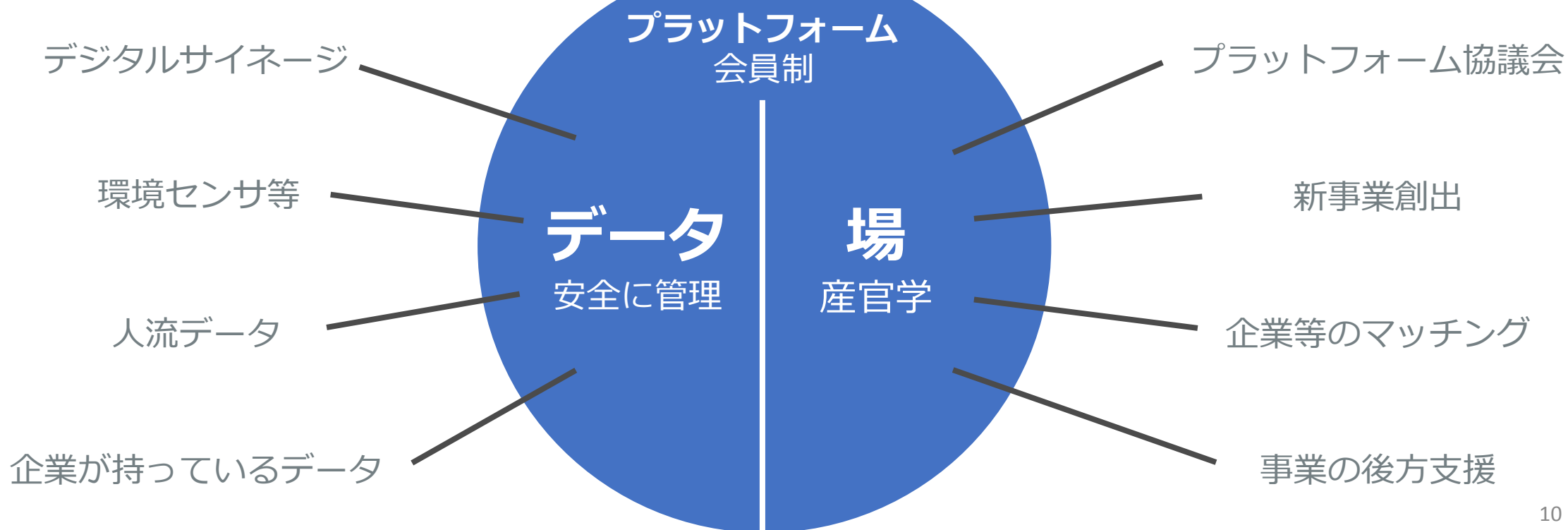


事業概要図

住んでよし、訪れてよしの京都を創る



観光等の新事業創出





デジタルサイネージ事業

デジタルサイネージ事業

京都府の主要な観光玄関口や交通結節点にデジタルサイネージを新たに10台設置。スマホやSNS等と連携した次世代のインタラクティブサイネージ。一人一人のニーズに合わせた観光情報の提供により、国内外の観光客の利便性向上と周遊観光を促進。

→サイネージを活用した様々な実証を展開

デジタルサイネージの主な機能



デジタルサイネージの府域展開予定図

新設：10台

既存：5台

海の京都 (2)



天橋立駅



網野駅

大阪 (1)



阪急観光センター

(外国人の玄関口)

東京駅 (1)



TIC TOKYO

森の京都 (2)



トロッコ嵯峨駅



JR亀岡駅

竹の里・乙訓 (1)



長岡京駅

けいはんな (2)



新祝園駅・けいはんなプラザ

嵐山 (3)



嵐電嵐山駅

京都駅 (1)



SUVACO

(観光客の玄関口)

お茶の京都 (2)



J R 宇治駅



けいはんな記念公園

大山崎山荘

宇治観光センター

和束茶畑

定点カメラ
5箇所設置



公園スマート化事業

公園スマート化事業

公園内にスマートライトや環境センサーを設置。エネルギー消費や温度・湿度等の環境データを収集。サイネージやHP等で発信し、地域住民の環境学習や環境啓発活動に繋げる。

また、ネットワーク防犯カメラを設置し、映像による人流データの解析からトラブル発生の早期検知等を行い、地域住民、観光客が安心安全を感じるスマートな公園を目指す。

→公園をフィールドに様々な実証を展開

<スマートライト>

街灯に内蔵の機器で遠隔からコントロールし、消費電力データを収集

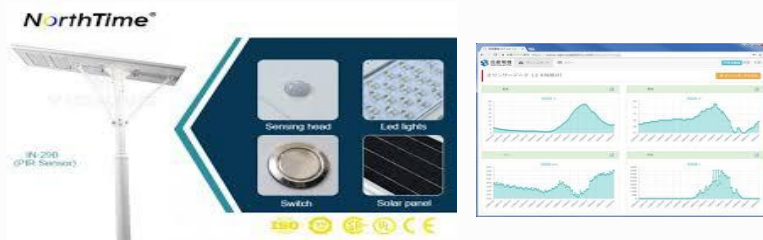


【環境】

遠隔での点灯時間、照度変更、調光による最適かつ効率的な照明環境

<環境センサー>

CO₂等の大気データなどの環境データをセンサーで取得



【環境】

CO₂など
環境の見える化

<ネットワーク防犯カメラ>

- ・映像から転倒や接触等のトラブルを検知
- ・カメラ映像から公園利用者数を把握。曜日、時間帯や天候状況別の人流データを測定



【安心安全】

事件や事故などの早期発見
トラブルの未然防止

公園スマート化事業エリア（嵐山公園中之島地区）



公園スマート化事業エリア（けいはんな記念公園）





データ基盤・人流データ

データ基盤・人流データ

- ・ 一社法人が用意するデータ

- 京都府内の人流データ
- その他

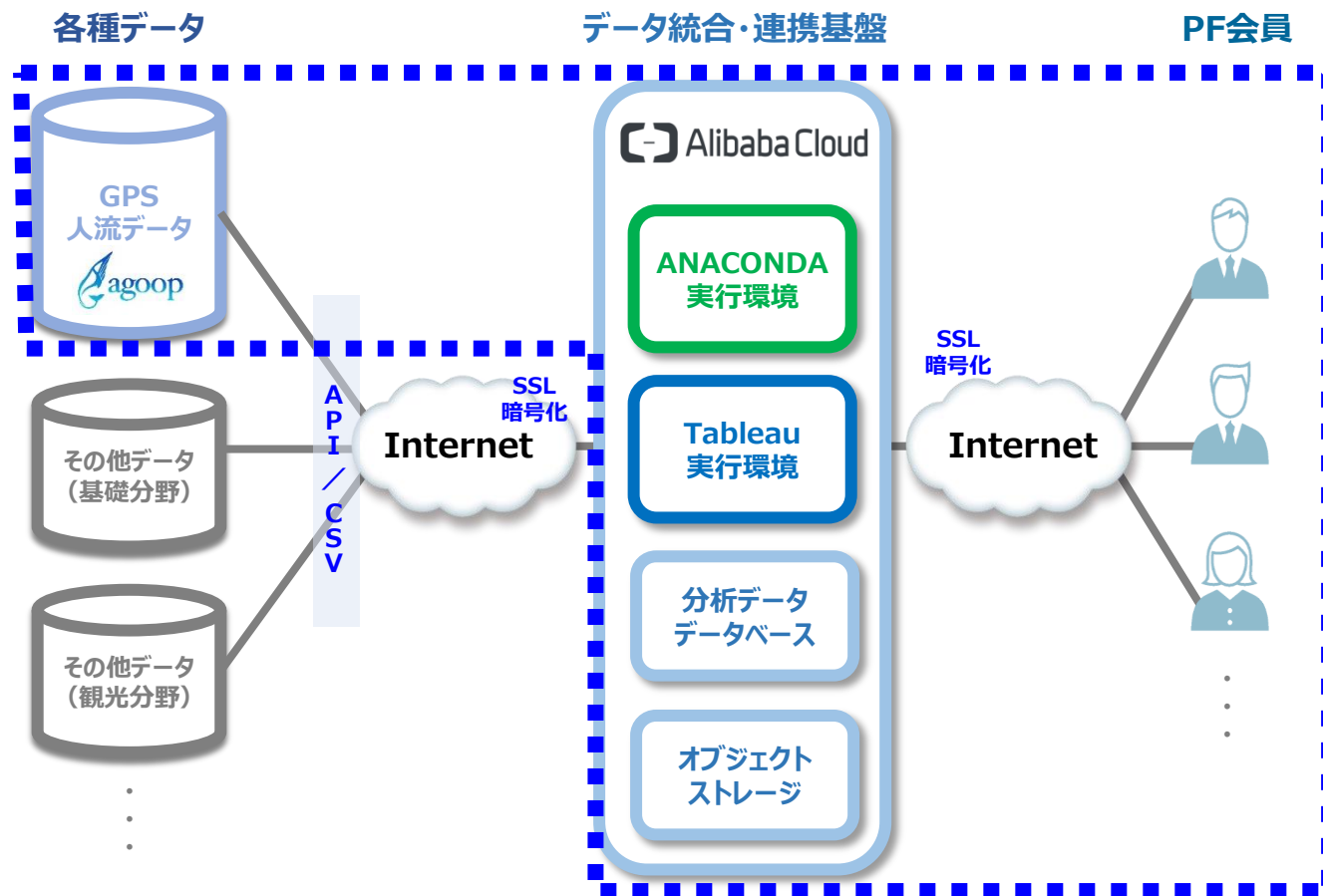
- ・ 企業同士のデータ連携

データアライアンスを組んだ企業同士のデータをプラットフォーム上で管理し、互いに活用する。

- ・ データ利用環境の提供

- クラウド上でPythonを利用できる環境（Anaconda）
- データ分析ツール（tableau）

※有料



【参考】データ取得に関する注意書

今回のデジタルサイネージでは、日・英・中の言語別にどのコンテンツに興味を持ったかが分かるよう、個人別のコンテンツタッチ数を取得するとともに、サイネージに設置しているカメラから、その個人のおおよその年代や性別、滞在時間を取得し、タッチ数と連携させてデータ化するため、カメラ画像の取扱について、

「カメラシステムで取得した画像データは、解析結果のみ取得し、画像データは即時削除します。」(案)

といった内容のテロップを画面上に流すことを予定しています。

また、サイネージの画面のアイコンから、右記のような注意書き（案）が見られるようにすることを予定しています。

これは、経産省のIoT推進コンソーシアム出された「カメラ画像利活用のガイドブック」において、努力目標として、カメラ画像の利用については出来るだけ丁寧に生活者や利用者に伝わるようにすることと記載されていることに対応するものです。

デジタルサイネージの運用について

京都府
一般社団法人京都スマートシティ推進協議会

京都府及び一般社団法人京都スマートシティ推進協議会では、魅力ある観光情報等を発信することにより、京都府を訪れる国内外の方々の利便性向上及び観光周遊促進を図るために、このデジタルサイネージを運用しています。

このデジタルサイネージから、タッチ数等による嗜好データ、Wi-Fiのログインデータによる行動データ、カメラシステムによる人流データ等を収集し、これらを分析することにより、京都府の観光施策等に活かしていきます。

これらのデータは、いずれも個人を特定できる形では取得いたしません。カメラシステムで取得した画像データは、解析結果のみ取得し、画像データは即時削除します。

データ管理を含め、本サイネージの運用につきましては、個人情報保護に関する法律等の法令に基づき、一般社団法人京都スマートシティ推進協議会が行います。

本デジタルサイネージについて、ご意見、ご質問等がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

【サイネージの設置時期】（データ取得期間）
2019年3月〇〇日～

【お問い合わせ先】
一般社団法人京都スマートシティ推進協議会
[TEL:075-823-2020](tel:075-823-2020)/Mail:info@smart-kyoto.or.jp
(平日 9:00～17:00)



分 科 会

分科会

会員様のニーズに応じて設定

分科会内容や経費に応じて価格決定（有料）

以下、分科会の例

会員様が分科会テーマを設定し、
参画会員を募る



自社保有データ活用、
設定したい課題

データ分析勉強分科会（例）



データ分析の基礎とツールを学ぶ

観光課題解決分科会（例）



観光客のさらなる増加への対応、
周辺観光地への誘導

行政の課題解決分科会（例）



行政データを活用、
安心・安全、交通弱者対策等の
行政課題解決

行政の課題解決分科会

地域の課題を抱えた行政と、課題解決につながるさまざま
シーズを持つ会員様をマッチングする分科会を開催

スマートセキュリティ 分科会

- AIやIOT技術を使って、地域の安心・安全につながる取組や防犯、防災対策について検討
- 第1回分科会
3月20日(水)14時～
京都市内で開催決定

スマートモビリティ 分科会

- 誰もが使いやすい交通手段として、スモール&スローな次世代型（ネクスト）モビリティを検討
- 第1回分科会
4月、京都市内で
開催予定

スマート農業 分科会

- 農業分野における担い手不足対策や作業の効率化につながる技術について検討
- 第1回分科会
4月以降、開催予定





事業の後方支援

補助金等申請支援

本プラットフォーム会員同士が実施するプロジェクトに対し、京都府等の補助金申請について、助言、担当部署紹介等の支援をします。

※補助金獲得を約束するものではなく、審査は全ての応募者の中から公平に第三者機関が行います。

補助金等名称	主体団体	内容・条件	支援金額
企業の森・産学の森推進事業	公益財団法人 京都産業21	・ 特定の分野やテーマにこだわらず、革新的な製品やビジネスモデルの開発等 ・ 事業グループ単位で応募（内1団体は、京都府の中小企業、大学であることが必要）	①勉強会や可能性実証等120万円以内 ②事業トライアル 2,000万円以内 ③本格的事業展開 5,000万円以内 ※いずれも1/2補助
京都エコノミックガーデニング支援強化事業	公益財団法人 京都産業21	・ 自社独自の強みを活かし、新サービス等の開発や新分野進出等を行う事業 ・ 京都府内に拠点を有する企業 ・ 推薦書があること	①事業創生コース 100万円以内 ②事業化促進コース 1,000万円以内 ③本格的事業展開コース 3,000万円以内 ※いずれも1/2補助

※上表はH30年度の情報を抜粋したものです。H31年度の詳細は今後公開されたものをwebからご確認ください。

事業の後方支援

事業推進のお手伝い

- 実証実験支援
 - サイネージを使った実証実験
 - データを使った実証実験
 - LPWAや公園スマート化機器を使った実証実験 など
 - 補助金・助成金申請支援
- 行政機関との繋ぎ役
(例)
 - 京都府
 - 府内市町村
 - 京都府観光連盟
 - 海・森・お茶の京都DMO
 - 京都府データサイエンスラボ 等

